

事業方針	事業の推進	<p>・新制度への対応・・・小規模保育事業を中心に検討をするが地域的に土地代が高く、収入に対して投資額が大きい。また在園保護者の下のお子さんを優先的に入れる、学童保育も含めた複合的な施設を考えたいなど制度的に難しい面があり地域のニーズにそぐわない。引き続いての検討課題となる。保護者の就労に配慮し、預かり保育の最長19:00までとしたが、そこまでの利用はなく朝8:00からの預かりが増えた。</p> <p>・家庭教育の重要性・・・親子での地域活動として、田んぼの会を始める。30組以上の家族の参加があり年間を通して楽しむ。</p> <p>・浜松市私立幼稚園協会における共同研究を通して、環境教育の見直しをはかる。</p>	
	平成28年度決算より	<p>・園の特徴であるビオトープにツリーデッキを設置する。</p> <p>・年長手洗い場の修繕。</p> <p>・満3歳児保育に対応するため備品を導入した。</p>	
	具体項目	内 容	
1	教育計画	<p>満3歳児教育の充実</p> <p>小学校との連携</p>	<p>当園の特色である「体験活動」や行事において満3歳という発達段階を考慮した実践がなされた。「SIあそび」については、クラス教材を導入したが担任が使いこなせていない面も見られるので、検討が必要。</p> <p>児童期への連続した学びの在り方や発達段階についての理解が各教員において理解がすすみ保護者への情報提供がなされた。特にリズム運動の発表においては、良い情報提供となっている。</p>
2	研究計画	<p>指導方法のスキルアップ</p> <p>活動記録を生かしてふりかえる</p>	<p>教員同士が保育を見せあうことで、各教員において指導方法の工夫が見られる。また指導要録の記載を通して幼児理解が進む。発達課題があるお子さんについては、並行通園施設指導者とのカンファレンスを通して、対応の仕方を学ぶ。</p> <p>浜松市私立幼稚園協会における共同研究推進園を受託することで、活動状況を記録し、各教員で振り返る。</p>
3	地域連携計画	<p>地域の自然等のかかわりを深める</p> <p>地域の人を対象とした講座の開催</p>	<p>NPO法人との連携により田んぼの会をスタートさせる。子どもだけでなく保護者間の交流やさまざまな年代とのかかわりをもつことができ自然を介して人のつながりを促すことができた</p> <p>祖父母参観会や絵本講座などを通して、園とかかわりのある地域の方の参加が進む。特に祖父母においては、積極的に活動に参加して下さる方が増えた。今後、祖父母参観会に限らず主体的に園活動に参加して下さる方を募ったり開かれた園の在り方を研究していきたい。</p>
4	施設設備計画	<p>園庭整備</p> <p>年長児手洗い場の補修</p>	<p>ビオトープを中心とした園庭の整備計画をたてるが、予算規模が大きすぎたため再検討を要する。各種助成金の活用の検討が必要。</p> <p>手洗い場の配管に漏水が見られたため、市の施設整備助成を活用し、緊急に改修する。</p>
5	管理運営計画	<p>教員資質向上</p> <p>職員の役割分担の再編成</p>	<p>障害児理解に関する研修に全職員が参加することができた。28年度は新任教員が3名であったため教員同士で丁寧な活動計画を伝え合うよう心掛ける。新任3名は、大変積極的で、よく学び行動する。</p> <p>教員の経験年数が上がり専門職としての意識が高い。行事における企画運営がスムーズである。</p>
6	財務計画	<p>施設の多機能化を視野に入れた経営判断</p>	<p>預かり保育の利用者・・・123人(昨年度141人)</p> <p>夏休み、春休みの小学生の利用・・・10人</p> <p>*昨年度に比べて同じ子が常時利用するケースが増えたため延べ人数は増加した</p> <p>保護者の就労だけでなく、育児ストレスの解消にも役立てることができるよう配慮する。(各教員の家庭理解の高さによるところが大きい)</p>